名古屋大学グローバルネットワーク

国際交流グループ

2013 年度活動報告書

Global Network
NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学グローバルネットワーク

2013 年度活動報告書

1．　名古屋大学グローバルネットワーク（国際交流グループ）紹介　1

2．　スモールワールド・コーヒーアワー活動報告　5

3．　ヘルプデスク活動報告　17

4．　ランゲージシャワー活動報告　25

5．　留学のとびら活動報告　35

6．　名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム（MEIPLES）

　　国際学生フォーラム（IF@N）活動報告　43

7．　English College　55

8．　異文化交流サークル ACE 活動報告　63

9．　NUFSA 名古屋大学留学生会 活動報告　73

Global Network
NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学グローバルネットワーク（国際交流グループ）

名古屋大学ではキャンパスの国際交流を活発にするために
学生が主体となって様々な交流活動をしています。
そんな活動を一緒にサポートしてくれる仲間を募集しています。
学生の皆さんの参加をお待ちしています！

スモールワールド・コーヒーアワー　(Small World Coffee Hour)

コーヒーやお茶を片手にリラックスした雰囲気の中で留学生と一般学生が出会い、文化や学生生活に関することなどを気軽に話し合える国際交流の場を毎月（学期中）に開催しています。楽しい文化交流の場を一緒に作ってくれる仲間を募集中です！

（問い合わせ）国際教育交流センターアドバイジング部門（IB 電子情報館西棟 739 号室）
Email: isa@iee.nagoya-u.ac.jp
URL: http://www.isa.provost.nagoya-u.ac.jp/prpgram/smallworld.html

ヘルプデスク　(Help Desk)

各学期の最初の 3 週間~1 ヶ月の間、国際棟のラウンジに設置するヘルプデスクを拠点に、新規来日した留学生へのサポート活動を行っています。また、留学生との交流のきっかけになるようなイベントも企画しています。留学生が気軽に立ち寄れる場を一緒に創ってくれるボランティアを募集中！

（問い合わせ）国際教育交流センター短期留学室（国際棟 1 階）
Email: volunteerdesk@iee.nagoya-u.ac.jp

ランゲージシャワー　(Language Shower)

何年も学習している外国語なのに自信を持って使えない、第 2、第 3 の外国語を使いたい、そんな要望に応えるためのプログラムです。間違いを恐れずに話し、聞き、楽しみましょう。プログラムを企画運営する学生ボランティア募集中。

（問い合わせ）国際教育交流センターアドバイジング部門（IB 電子情報館西棟 739 号室）
Email: adv@iee.nagoya-u.ac.jp

留学のとびら　（Gateway to Overseas Studies）

留学のとびらは、交換留学、語学留学など色々な形の「留学」を経験した名大生による、将来の名大留学候補生をサポートする団体です。毎年の留学フェア、留学相談会を主催、その他留学に関連する様々な企画立案をしています。留学は現地に行ってみないとわからないことがたくさんです。実際に留学を経験したからこそできる活動を通して留学に行く後輩達を一緒にサポートしましょう！

（問い合わせ）国際教育交流センター海外留学部門（国際棟 1 階）
Email: abroad@iee.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学国際学生フォーラム　（IF@N）

キャンパスに集う多様な学生が、日本語・英語で自由、活発に討議を行い、国際理解・相互理解を深めていくことを目指して開催される国際学生フォーラムです。名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラムの一環として、このフォーラムを一緒に創っていく実行委員会のメンバーを募集しています。

（問い合わせ）国際教育交流センターアドバイジング部門（IB 電子情報館西棟 739 号室）
E-mail: isa@iee.nagoya-u.ac.jp

English College

English College は英語を話す機会をすべての人に提供することを目的とした国際教育交流センターの学生サークルです。昼食時に英会話で盛り上がったり、英語でディスカッションをしたりと、様々なイベントを定期的に開催しています。どの学年からも気軽に参加できます。

（問い合わせ）meidai.englishcollege2013@gmail.com
（開催場所）国際棟 201 教室　　（活動日時）月・水のお昼休み

異文化交流サークル ACE　（Action Group for Cross-Cultural Exchange）

ACE では、「交流・架け橋・ボランティア」の精神で活動を行っています。ACE の最も重要な活動は毎年 4 月と 10 月に名古屋大学に来る留学生の受け入れ活動をすることです。その他にも一年を通じて留学生と一般学生が交流するイベントを企画しています。いつでも誰でも大歓迎です。参加したいと思った時がスタートです。

（問い合わせ）ホームページ　http://ace.tuzikaze.com

NUFSA 名古屋大学留学生会
（Nagoya University Foreign Students Association）

名古屋大学の留学生や一般学生など多様なメンバーで構成されている留学生会です。名古屋大学で学ぶ留学生が楽しく留学生活を送れるようサポートしたり、国際交流イベントを開催しています。参加お待ちしています！

（問い合わせ）Email: nufsa@nagoyaren.com

スモールワールド・コーヒーアワー
Small World Coffee Hour

Small World Coffee Hour
2013 年度　活動報告

総合文責：高橋美希

1. 団体紹介

Small World Coffee Hour はイベント「Small World Coffee Hour」（以下、コーヒーアワーと省略）を企画・運営する団体である。外国人留学生や日本人学生に新たな出会いと新たな繋がりを作る場を提供することを目的として、2005 年後期に発足した。以後、イベント内容に工夫を凝らし、活動記録のテンプレートを作成して組織運営を円滑化することで、イベントだけでなく組織としての規模も大きくなってきている。2013 年度は、今までのコーヒーアワーの伝統を大切にしながら、新しいスタッフを増やす、新たなチャレンジを試みることに重点を置いて活動してきた。

1.1. 理念

外国人留学生や日本人学生をはじめとする、様々な文化的背景を持つ人たちに、学内での交流の場を提供することである。本年度は「挑戦」と「伝統」という目標を掲げ、活動を行った。

1.2. 特徴

- 有志の学生が中心となって活動を行っている。（学部・学年は問わない）
- 誰でも参加可能なオープンなイベントを基本的に各学期３回、月に１度のペースで企画・運営をしている。参加者同士が話すきっかけとなるような、日本や世界についてのテーマを設定している。
- 参加者にリラックスした雰囲気の中でアクティビティやゲームを楽しんでもらえるよう、コーヒーとお菓子を提供している。

1.3. メンバー構成

文責：高橋美希

遠藤巧（理学研究科 2 年）
杉村州平（国際開発研究科 1 年）
黒川綜太（工学部 4 年）
高橋美希（教育学部 4 年）
櫻庭優（農学部 3 年）
山田貴之（工学部 3 年）
井上美里（文学部 2 年）
加納佐知子（経済学部 2 年）
木下悟（農学部 2 年）
清美樹（工学部 2 年）
後藤藍弓さん（経済学部 1 年）
神谷柚衣さん（経済学部 1 年）
Dana Fager(経済学研究科研究生 夏帰国)

Justin Jonas(NUPACE 夏に帰国)
Yui Pavinee (NUPACE)
マウリシオ オヘダ（マウ）
（国際開発研究科 1 年）
シバラム カドカ(国際開発研究科 1 年)
Tanvert（国際開発研究科 1 年）
ウィターナ ヴェスマ キスミニ
（工学部 1 年）
アブマ メラド （工学研究科　研究生）

2. 活動紹介

2.1. 活動について

■ミーティング

週に 1 度（毎月 3～4 回）の頻度で行い、企画シートをもとにして、その月のコーヒーアワーのテーマや内容、役割分担、会場のレイアウトなどを決めている。各ミーティングでは、議事録を作成し、メーリングリストに流して情報を共有している。また、議事録やポスター、資料、写真などの保管場所としては、名古屋大学 SNS「MINT」のコミュニティファイルを活用している。

■広報活動

半期計画のポスターと各回のポスターを、各学部および研究科・国際教育交流センター・生協・食堂などに掲示した。また、留学生相談室から学内の留学生担当者に依頼し、イベント告知のメールを流してもらった。

2.2 コーヒーアワーについて

■当日の動き

15:30～　留学生相談室にてコーヒーを準備
16:00～　国際教育交流センターで企画シートに従い、会場設営開始
16:15～　受付開始
16:30～　コーヒーアワー開始（すぐにアクティビティまたはゲーム開始）
　　途中、適宜 Free Conversation Time を設定
18:00～　終了・片付け
18:30～　振り返りミーティング

■本年度の工夫点

<u>他団体と合同でイベント企画をする</u>

11 月企画では、名古屋大学茶道部松尾流の方々に協力を依頼し、イベントにて茶道のお手前を披露して頂いた。12 月企画では、名古屋大学ブルーグラスサークルの方々に協力を依頼し、イベントにて演奏を披露して頂いた。

コーヒーアワーオリジナルTシャツの作成

デザインから発注までコーヒーアワーのメンバーで企画し、オリジナルのＴシャツを作成した。イベント時に T シャツを着ることで、スタッフの一体感が増し、参加者からは誰がスタッフか一目で分かるようになった。

開催月について

本来は 4・5・6・10・11・12 月の計 6 回、イベントを開催しているが、今年度は 6 月が難しくなったため、臨機応変に 7 月に変更した。

3. 年間行事記録

【4月のコーヒーアワー】 文責：井上　美里

「自己紹介ビンゴ」

・日時・場所：４月２６日（金曜日）16:30~18:00　@留学生センター１階ラウンジ

・参加人数：１００人以上

・イベント概要

例年、学期初めのイベントで行っている自己紹介ビンゴを今年も行った。好きな食べ物や行ったことがある国など、簡単な質問が英語と日本語で載っているビンゴシートに自分の回答を記入し、同じ答えの人がいたらサインをしてもらうというゲームである。より適切で会話が広がるような質問になるよう、今年も質問の見直しを行った。ビンゴの上位数名には、景品として名大饅頭などのお菓子を用意した。前回まで、ルールがわかりにくいという声が多かったので、今回は司会からの説明だけでなく、あらかじめビンゴシートにルールを記載した。また、広報活動としてビンゴシートにコーヒーアワーの Facebook ページの URL を載せたり、新規スタッフ募集の公告を載せたりした。

・実施した感想

参加者も多く、とても楽しんでもらえた印象だった。熱心にビンゴに取り組んでいる参加者も多くてよいアイスブレイキングになったと思う。音楽を天井のスピーカーから流すことができ、ほどよい音量で好評だった。学期初めにこのような自己紹介を兼ねたイベントを行うのは、会話も広がりやすく交流の輪を広げる良い機会となるので、今後も改良を加えながら続けていきたいと感じた。

・気づいたこと（改善点など）

NUPACE の振りかえ授業と日程が重なってしまい、参加できなかった人も多かったのではと予想された。時間割との兼ね合いは行っていたが、他のイベントや補講と重なることもあるのでより入念に日程を調整していく必要がある。今回は、実験的に司会は１人だったが、参加者が多いと大変なので、今後は複数人で行うのが良い。お菓子や飲み物のほかに、もっとフードがあると良いという意見もあり、ケータリングや持ち寄りを検討したい。

【5 月のコーヒーアワー】　　文責：加納　佐知子

「オノマトペ coffee hour」

・日時・場所：5 月 30 日（木曜日）16:30~18:00　@留学生センター１階ラウンジ

・参加人数：45 人くらい

・イベント概要

～世界の擬音語クイズ～

① 擬音語が使われそうな場面の写真や絵を紙にいくつか載せておきそれぞれに記号を付けておく。

② 参加者自身にその写真のシーンに見合ったオノマトペを考えて、その紙に記入してもらう。（この時、それぞれの出身国で使われている言葉で書いてもらう）
③ お互いが書き出したオノマトペはどの写真のものか当てあう。
④ その中で特に面白いと思ったものはポストイットに書いて周囲の壁や柱、掲示板に張られた大き目のポスター（同じ写真）にはる。（紙に前もってポストイットを 2 枚くらい張っておくと良い）
⑤ 最後に全員でポスターに張られた面白オノマトペを共有

・実施した感想
今回は割と少人数のＣＨとなり、久々にそれぞれの参加者の方とじっくりお話する時間があって、仲良くなれたのでとてもうれしかった☆
いつものわいわいと盛り上がる雰囲気とはまた違った、コーヒー片手にゆったり交流を楽しむスタイルもコーヒーアワーの本来のあり方の一つなのではないかと感じた。

・気づいたこと（改善点など）
内容に関しては、”オノマトペ”自体がどんなものであるか、はじめのうち少しわかりづらかった感じがした。司会の方のナイスフォローもあり、徐々にお互いの国固有の意外なオノマトペ紹介で盛り上がっている様子だったのでよかった!(^^)!
日本語でも英語でも細かいニュアンスを伝え合うのが難しい分、話が深まった。留学生にとってはこの機会に日本語でのオノマトペを理解してもらうことで、普段の生活の中でも使ってもらうのに役立ったかと思う。
今回の企画は留学生からの提案だったので、今後もこういった日常生活にまでつながる異文化理解を目標にするという視点も大切にしていけるといいと思う。

【6 月のフリーマーケット】 文責：山田貴之

・日時・場所：6 月　７日　（土）　10：00～17：00・図書館南側メインストリート

・参加人数：約 20 人

・イベント概要

３つの国際交流団体、留学の扉、HelpDesk、コーヒーアワーが共同で名大祭の時にフリーマーケットを出店した。出品物としては主に世界各地のアクセサリーや陶器、ぬいぐるみ等を出品し、来店されたお客様にグローバルな雰囲気を体感して頂けるように工夫をした。

・実施した感想

国際的な商品を出品しているのは我々のフリーマーケットだけという事で、お客さんがたくさん来店してくださり、両日ともとても店が繁盛した。最終日にはたくさん出品した商品がすべて完売することが出来、さらにお客様に異文化を体感して頂けたので、非常に満足している。

・気づいたこと（改善点）

始まりの準備と終わりの後片付けの時間が思った以上にかかってしまったことが挙げられる。また、開始時間になっていないのにお客さんが商品に集まり、「早く購入させてほしい」などと、早めの時間に購入を求めるお客様がたくさんいらっしゃったので、今年は看板に「販売開始時間は１０時～」などして、開始時間をしっかりと守って頂けるようにしたい。

【7月のコーヒーアワー】 文責：黒川綜太

「縁日企画」

・日時・場所：７月５日（金）16:30~18:00　＠留学生センター１階ラウンジ

・参加人数：８５人

・イベント概要

うちわ作り、お絵かきせんべい、かるたのエリアに分かれてそれぞれ企画した。うちわ作りはこちらで骨組みと紙を用意し、自由に絵などを描いてもらった。お絵かきせんべいはせんべいとソース、マヨネーズ、青のりなどを用意し、せんべいに好きなようにつけて召し上がってもらった。かるたは一番とれた人に名大ゴーフレットを景品としてプレゼント。６回ほど行った。

・実施した感想

盛り上がっていてよかった。〇司会が上手だった。〇ジャスティンとセバスチャンがか

るたを読んでいて嬉しそうだった。〇うちわの作り方を参加者が互いに教え合ってコミュニケーションをとるきっかけになっていた。

・気づいたこと

〇会場のプロジェクターが使えたので、これから積極的に活用したい。〇かるたの人数集めが手間取ったので、あらかじめ開始時間を決めればよかった。〇うちわのエリアが狭い。〇一人で寂しそうな人がいたので、スタッフが積極的に話してかけた方がいい。〇一度日程が変更になったので、混乱が生じていたよう。そもそも毎月何日にやるかわからないため、学期の初めにその期の各月の日程を全部決めた方がいいかもしれない。

【10 月のコーヒーアワー】 文責：神谷柚衣

「自己紹介ビンゴ」

・日時・場所：10 月 17 日（木曜日）16:30~18:00　＠留学生センター１階ラウンジ

・参加人数：60 人程度

・イベント概要

自己紹介要素を含んだ質問を印刷した自己紹介ビンゴを用意。5×5 のマス目に好きなものや自分の経験などの質問を印刷した。ビンゴシートは英語、日本語を裏と表に印刷して、日本人でも留学生でも楽しめるようにした。質問の答えが共通する相手を探して名前を書いていってもらい、ビンゴした人には景品を贈呈。

・実施した感想

- 終了時間の 18 時過ぎても話が盛り上がっており、話題のきっかけづくりであるビンゴは成功したと思われる。
- 今回は、日本人学生の参加が少なかった。
- 受付を始めるのが遅くなったが、始まってからはスムーズに進められた。
- イベント開始時はお菓子や飲み物は手つかずであったのに対し、コーヒーが人気ですぐ売り切れてしまった。

・気づいたこと（改善点など）
回を重ねるにつれどんどん自己紹介ビンゴがスムーズにできるようになってきた。しかしイベントの告知が十分でなかったので、日本人に対してももっと告知する必要がある。時期やその日の気候を考えて、コーヒーの量を調節しなければならない。

【１１月のコーヒーアワー】　　文責：後藤藍弓

「利き茶、茶道」

・日時・場所：11 月 28 日（木曜日）16:30~18:00　＠旧留学生センター１階ラウンジ
・参加人数：約 60 人
・イベント概要
茶道部の協力のもと、お点前を披露してもらい、お菓子とともに日本の文化に触れてもらうきっかけを作った。利き茶では５種類のお茶を用意し、参加者に飲み比べをしてもらい最後にどのお茶が一番好みか投票してもらった。

・実施した感想
昨年も同テーマでイベントを開催し、好評だったことから、今年度の実施が決まった。普段は日本文化に触れるきっかけがあまりない留学生たちにとっても、良いきっかけとなった。利き茶では日本人も初めて飲む種類のお茶もあり、楽しんでいたようだった。音響やスライドに凝ったこともあり、雰囲気のある、ゆったりしたイベントとなった。

・気づいたこと（改善点など）
イベントの最初と最後に次回のイベントの日時を知らせるとよい広報になる。スクリーンと音楽が雰囲気をよりよくしていた。イベント後にＦａｃｅｂｏｏｋに写真を載せると楽しさがより伝わる（←参加者の許可を最初にとっておく）ポスター以外にも広報の方法を増やせるとよい。ポスターを貼る場所を決め、参加者にわかりやすくする。

【12月のコーヒーアワー】 文責：木下 悟

「書道＆折り紙＆ブルーグラスミニコンサート」

・日時・場所：１２月２０日（金曜日）16:30~18:00@国際教育交流センター１階ラウンジ
・参加人数：約４０人

・イベント概要
参加者の皆さんに書道や冬をイメージした折り紙を楽しんでもらった。
また、コーヒーアワーの終わりがけにブルーグラスサークルに演奏をしていただいた。

・実施した感想
書道は日本人と留学生互い自分の作品を見せ合っていたり、折り紙では皆真剣に難しいものを折っていたりして雰囲気が良かった。日本人が留学生を手助けしている事が多く、参加者はたくさん交流していた。ブルーグラスミニコンサートもとても素敵で参加者の方々も楽しんで頂けた。

・気づいたこと（改善点など）
折り紙が難しくて作れない人などが出たので、もう少し簡単にした方がいいかもしれない。また、コンサート中、折り紙に熱中している人達がコンサートを無視してしまっていたので、ミニコンサートの時はコンサートの方に集中してもらう工夫も必要だと感じた。

4. コーヒーアワーで大切にしていること・来年度への抱負

●コーヒーアワーではどうすれば初めて出会う人達、それも違う文化や国籍を持った人達が話し、交流しやすい雰囲気を作ることができるか常に意識しています。今年度の後半は留学していて活動に参加することができなかったので、来年度はさらにいい雰囲気を作っていけるよう尽力していきたいと思います。（杉村）

●今年度は３月のリクルーティング活動に始まり、かなり中心的なメンバーとして活動しました。６月の CoffeeHour で初めて月担当をし、メインで計画を立てました。その時に気を付けたことは、相手の気持ちになって物事を考えるということです。何度か CoffeeHour を経験するうちに、外国人と日本人の考え方の違いというものが色々な場面で表れることが分かりました。そのため「こんな説明だと外人にわかりづらい」とか「こんなものを準備すると外人に喜ばれる」など、みんなが楽しめるように計画を立てようと心掛けるようになりました。

　来年度への抱負ですが、現状維持をできるように頑張るということです。今くらいの感じがアットホームでスタッフも参加者も楽しくやれていると思います。リクルーティングはある程度やる必要はありますが、あんまり人数が増えると一体感がなくなってしまいそうなので、ほどほどで。個人的な話だと、大学院に入って研究がかなり忙しくなるので、今年度のように中心的には活動できないと思います。なのでできるだけ参加するという目標も持っておきます。（黒川）

●参加者の方が「楽しかった」と思って頂けるよう、“初対面の人同士が話すきっかけとなる仕掛け”を企画の中に用意することを意識して月の企画をすることを大切にしていました。私は今年度で卒業しますが、今後もメンバー皆で、このコーヒーアワーという素敵な温かい空間作りを続けていってくれることを願っています。（高橋）

●どこの団体よりも参加者に落ち着いてもらえたり、ホッとするような団体の雰囲気を大切にしたい。来年度は、とにかくたくさんの方に CH を知ってもらい、CH に参加して頂きたいです。目指せ 100 人参加！！（山田）

●今年度は大きく代替わりした年でしたが、新メンバーも増え、とても楽しく活動できました。企画段階もイベントも和やかな CH の雰囲気が大好きです。シンプルにお茶とお菓子があるだけでも談話が弾んで楽しいところを、CH ではちょっとしたゲームやワークを加えることでより深いイベントにしているのだと私は考えています。これからもシンプルで柔軟性のあるイベントを考えていきたいです。（井上）

●世界中あらゆる国の人々が同じ一つの空間に集う奇跡を大切にする。だからこそ日本の、世界のことをもっと知れる機会をつくりたい、気軽に参加しやすい会にしたいと思う。（加納）

●コーヒーアワーの運営を通して、たくさんの参加者やスタッフに出会うことができました。様々な国から様々なバックグラウンドを持った人達が集まりコーヒーを飲みながらのんびり話をする、そんなコーヒーアワーは本当に魅力的だと思います。来年度はより積極的に運営に携わっていきたいです。　（清）

●コーヒーアワーは先学年から参加者として何回も参加していて、今学年から初めてスタッフとして参加するようになりました。コーヒーアワーはイベントの内容や詳細などがミーティングで決まることが多いのでなるべくミーティングに参加するように頑張っています。また、スタッフも幅広い学年の人や留学生もいて、皆素敵な人が多いので一緒に働けるのが楽しいです！来年は、コーヒーアワーに興味があるけどなかなか一歩が踏み出せない人達にも、楽しんで来てもらえるようなコーヒーアワーを作っていきたいです！（木下）

●去年 4 月の CH に初めて参加し、外国の人たちとこんなに身近にかかわれるのだと感動して、スタッフに入りました。自分とは全く異なるバックグラウンドを持った人たちと交流することは本当に楽しいことだと思うので、できるだけ多くの参加者の皆さんにその楽しさを感じてほしいと思って毎月のイベントを企画しています。来年度も自分自身が楽しみながら、また新たなイベントを企画していきたいと思います。（神谷）

●私がコーヒーアワーで大切にしていることは、参加者にイベントを楽しんでもらうことはもちろんですが、自分自身もイベントや準備を楽しむことです。来年度はもっと自分からイベントの案を出していきたいです。（後藤）

ヘルプデスク
Help Desk

ヘルプデスク
2013 年度　活動報告

文責　　人見遼太

【1】団体紹介

<概要＞

ヘルプデスクとは、名古屋大学の交換留学生が学校生活を快適に過ごすための、有志の学生による留学生支援活動の 1 つである。主に新規受け入れ交換留学生を対象としており、春学期と秋学期の年に 2 回、交換留学生の来日後 3 週間～1 カ月間、国際教育交流センター 1 階にデスクを設置し、留学生の質問に対応する、相談に乗る等の活動を行っている。また、交換留学生来日当日の学生寮への受け入れや手続きなどの手伝いも活動に含まれている。さらに、3 週間～1 か月のデスク設置期間以外にもサポーター学生の提案や交換留学生からの要望でさまざまなイベントを開催することもあり、日本人学生と交換留学生との交流を促進している。

＜特徴＞

メンバーは有志の学生で構成されている。海外に興味のある学生、留学経験者、留学生なども参加している開かれた集まりであり、学部・大学院、専攻、語学力等の条件はない。実際に活動している学生の学部や年齢も様々であり、特別な入会・退会手続きは行っていない。また、国際教育交流センターの教職員がヘルプデスクに参加するサポーター学生に対して定期的且つ継続的に適宜助言や提案を行っており、教育的効果があるよう配慮されている。

＜活動目的＞

第一に、実際に名古屋大学で生活している学生が持っている情報力を生かし、来日したばかりの交換留学生がスムーズに学生生活を始められるよう支援することである。第二に交換留学生と名古屋大学生の交流のきっかけを作ることである。普段、留学生の時間を共にする機会のない日本人学生にとっても、日本人学生との交流の場が少ない留学生にとっても国際教育交流センターに常時滞在しているヘルプデスクの存在は国際交流の窓口に大いになりうる。

＜2013 年度　年間活動＞

3 月	前期ヘルプデスク準備、ヘルプデスク説明会
4 月	出張ヘルプデスク、通常ヘルプデスク、お花見会
5 月	ビアガーデンパーティ

6 月	花火、国際交流団体合同フリーマーケット@名大祭
9 月	後期ヘルプデスク準備、出張ヘルプデスク、通常ヘルプデスク、ヘルプデスク説明会
10 月	通常ヘルプデスク、ハロウィーンパーティ
2 月	地獄の細道準備

【2】2013 年度　ヘルプデスク活動

◎出張ヘルプデスク

＜概要＞

新規交換留学生が最も支援を必要としているのは到着した日から学生オリエンテーションまでの期間であると指摘する声から、交換留学生来日当日から質問や相談に対応できる窓口を国際嚶鳴館の 1 階ロビーに設置し、サポーター学生が交換留学生の入寮手続きをはじめとする支援を行った。

〇新規留学生受け入れ

（前期）

日時；2013 年 4 月 3 日、4 日 9:00-17:00

場所；国際嚶鳴館 1 階ロビー

スタッフ数；10 人程度（常時 3,4 人態勢で運営）

（後期）

日時；2013 年 9 月 24 日、25 日 9:00-17:00

場所；国際嚶鳴館 1 階ロビー

スタッフ数；10 人程度（常時 2,3 人態勢で運営）

＜活動指針＞

（前期）前年度の主要スタッフのほとんどが院進学で引き続き大学に在籍したため、前年度同様、特に問題なく運営することができた。

（後期）主要活動メンバーの 8 割強が留学にいったことで、少人数での運営を強いられたので、その分他団体やセンターの職員の方との連携の強化を図る工夫を行った。また、来年度から今年度までの主要メンバーのほとんどが受け入れに参加できないことが予想されたため、下級生の育成にも力を注いだ。

＜活動内容＞

新規交換留学生の入寮当日、入寮日からオリエンテーションまでのスケジュールを説明し、国際嚶鳴館の日本人学生による入寮手続きの補助を行った後、そのまま日本人学生に

館内の案内を依頼した。また、毎回新規留学生がする質問のほとんどが館内でのインターネット接続に関することだが、前期はサポーター学生が個別で自らの wifi ルーターを貸し出したりするなどして対応し、後期は即日インターネット接続可能なプロバイダの方がいらしていたので、そちらに案内するなどして対応した。後者の方に関しては、後日いろいろと問題が発生したため、これからデスクとしてどう対応するか検討する必要がある。

○買い物ツアー

（前期）

日時；2013 年 4 月 3 日、4 日　14：00-

場所；イオン八事店

スタッフ人数；5 人程度

（後期）

日時；2013 年 9 月 24 日、25 日　14：00-

場所；イオン八事店

スタッフ人数；5 人程度

＜活動指針＞

日本での生活を始めるにあたり、いろいろなものを買い揃えなければいけないが、どこに行けばいいのか分からない、日本語が分からないため 1 人で買い物に行くのが不安だという留学生を支援することを目的とした。

＜活動内容＞

当日、国際嚶鳴館の 1 階ロビーに買い物ツアーに参加を希望する留学生（東山レジデンスに住む留学生含む）に集合してもらい、地下鉄にてサポーター学生がイオン八事店に引率した。地下鉄での移動は、名古屋の地下鉄の乗り方に慣れることを目的としていた。到着後、留学生にイオン八事店のフロアガイドを配布し、指定の時間になったら一度フードコートに集合し、その後も引き続き買い物をしたいならしてもよいという旨の指示をしたあと解散。以前から、留学生の安全の確保のためグループをつくるなどの試みもあったが、今回は留学生の自主性を重んじるということで、こういう形をとるに至った。前期、後期共に、前学期からの継続留学生が参加し、新規留学生の案内を率先して行ってくれた。前年度に比べ少ない人員で運営することになったが、後期、買い物ツアー担当のサポーター学生間での連絡がよくとれていなく、1 グループ八事イオンに取り残されるという問題が発生した。ここから、事前の連絡手段の確保という問題が来期の買い物ツアーの課題として浮かび上がった。

○学食ツアー

（前期）

日時；4 月 3 日、4 日　18；00-

場所；フォレスト（学生食堂）

スタッフ人数；10 人程度

（後期）

日時；9 月 24 日、25 日　18：00-

場所；フォレスト（学生食堂）

スタッフ人数；5 人程度

＜活動指針＞

これからの留学生活で学生食堂で食事をする機会は多いということから、その利用方法教えることと留学生間の親睦を深めることとを目的とする。

＜活動内容＞

当日、参加を希望する留学生に国際嚶鳴館と東山レジデンスにそれぞれ集合してもらい、嚶鳴館の引率はヘルプデスクが、東山レジデンスの引率は ACE とヘルプデスクの学生が共同で行った（後期）。留学生の中にはベジタリアンやイスラム教徒など、さまざまな文化的背景を抱えた学生がいるため、それらも考慮しながら学食ツアーを行った。

○ウェルカムパーティ

（前期）

日時；4 月 5 日　18：00-

場所；国際嚶鳴館 1 階多目的ホール

スタッフ人数；10 人程度

（後期）

日時；9 月 25 日　19：00-

場所；国際嚶鳴館 1 階多目的ホール

スタッフ人数；10 人程度

＜活動指針＞

新しく来日した留学生を歓迎し、新旧交換留学生間の交流だけでなく、前期は嚶鳴館に新しく入寮した日本人の新入生との親睦も深めることをも目的としたパーティである。パーティは立食形式であり、途中レクリエーションも取り入れた。

＜活動内容＞
（前期）食事内容は前年度後期のものの評判が良かったため、それをほぼそのまま引き継いだ。公式的にこちらから嚶鳴館に住む日本人学生をパーティに招待するのは初の試みであったが、あちらこちらで日本人学生と留学生がコミュニケーションしている姿が見受けられ、今後の嚶鳴館の日本人学生と留学生の関係のさらなる発展につながるのではという印象を受けた。途中で親睦をはかるために取り入れたレクリエーションだが、実際にやってみて 100 人を超える参加者を統制するのはかなり困難であったため、内容に関して改善が必要である。
（後期）留学生の中にはパーティでお腹を満たそうという考えの学生もおり、その要望にこたえ、サンドウィッチのサブウェイやピザに加え、今回は寿司を大量に用意した。ヨーロッパやアメリカの学生は米や生魚が苦手なのではないかと危惧したが、その心配とは裏腹に、寿司はヨーロッパやアメリカの学生にも大人気であった。今回は、直前の買い物ツアーとの兼ね合いもあり例年よりも開始時刻を 1 時間遅らせたが、嚶鳴館のＢＫと日程が重なってしまい、ＢＫの開始時刻を押してしまった。次回からはＢＫの予定を事前に把握しておくことが必要である。

◎通常ヘルプデスク
（前期）
日時；2013 年 4 月 5 日-4 月 26 日
10：00-17：00
場所；国際教育交流センター1 階ロビー（旧留学生センター）

（後期）
日時；2013 年 9 月 26 日-10 月 25 日
10：00-17：00
場所；国際教育交流センター1 階ロビー（旧留学生センター）

＜活動指針＞
新学期開始後の 3 週間~1 ヶ月、国際教育交流センター（旧留学生センター）のロビーに質問・相談コーナーを設置し、新入交換留学生が気軽に質問や相談に立ち寄れる場を提供することを目的とした。

＜活動内容＞
サポーター学生は各自の都合のよい時間に窓口のテーブルにつき学生の質問や相談に応え、特にシフトなどは決めていない。例年学期始めのオリエンテーション期間は通常ヘル

プデスクが一番にぎわう時である。今年度も例にもれず、授業が行われる建物や教室の場所、送金用銀行口座の開設や携帯電話開通に関する質問がよくされた。最近の交換留学生は、サークル活動やアルバイトにも積極的に参加するという傾向が強いため、学内のサークル情報はサポーター学生自ら地獄の細道に出向きチラシを集めるなどした。そのチラシはファイリングし、誰でも閲覧可能な状態にしてある。はじめの 1 週間が過ぎると質問や相談にくる学生の数もまばらになり、むしろサポーター学生との交流を求めてデスクに立ち寄る留学生が目立つようなった。

◎2013 年度実施イベント

〇お花見

日時；4 月 14 日

場所；鶴舞公園

＜目的＞

日本独自の春の楽しみ方の 1 つとしてのお花見を楽しんでもらうのと同時に、4 月に日本に来たばかりの新規留学生に日本人学生や他の留学生との親交を深めてもらうことを目的とした。

＜内容＞

今はヘルプデスクの春の恒例行事となった。今年度も、数名の有志のサポーター学生が夜からブルシートを敷いて場所を確保してくれた。飲食物は特にこちらからは用意せず、場所のみ提供。参加者それぞれが屋台や近くのジャスコなどで飲み物などを持ち寄り、思い思いの花見を楽しんだ。

〇ビアガーデンパーティ

日時；5 月 18 日

場所；丸栄屋上ビアガーデン

＜目的＞

数年前の留学生からの「ビアガーデンに行ってみたい」という要望から実現したイベントが、値段も場所も手ごろに確保できるということから、今や毎年行われるようになったイベントである。来日から約 1 カ月が経ち生活がようやく落ち着いたころ、さらなる親睦を深めるためのウェルカムパーティにつづくイベントである。

＜内容＞

本年度は会場が広いということと値段が安いという点から、場所を昨年の名鉄百貨店屋上から丸栄屋上へと移した。交通の便もこちらの方がよく、留学生には好評であった。参加費は 3300 円で、2 週間ほど前に電話でビアガーデンの席を予約した。場所がよくわからない学生の為に、国際教育交流センター（旧留学生センター）の前で集合してから会場まで引率した。

◎国際交流団体合同フリーマーケット

日時；6 月 7 日、8 日、9 日

場所；名古屋大学文学部前

＜活動指針＞

名大祭においてコーヒーアワー、ランゲージシャワー、留学のとびら、NUELC、ヘルプデスクの計 5 つの国際交流団体が合同でフリーマーケットを行った。不要になった衣類、小物、本などをリユースすると同時に、収益を各団体の活動資金とすることを目的に行った。

〇ハロウィーンパーティ

日時；2013 年 11 月 1 日　18：00-21：00

場所；国際教育交流センター1 階ロビー（旧留学生センター）

スタッフ人数；10 人程度

<目的＞

毎年個人主催だったハロウィーンパーティを今年はヘルプデスクの予算も導入し、前期に比べイベントの少ない後期にも、留学生に留学生活を楽しんでもらおうという思いから、ヘルプデスク主催に至った。

＜内容＞

参加者それぞれが思い思いの仮装をして参加した。パーティの最後にはコスチュームコンテストの時間も設け、優勝者には賞品を贈呈した。

Language Shower　ランゲージシャワー

(2013 年度活動報告書)

【学生スタッフ構成】

ファシリテーター
津田康介（生命農学研究科博士前期課程１年）　中国語・韓国語
岡田優士（多元数理科学研究科博士前期課程１年）　中国語
杁江正博（工学研究科博士前期課程１年）　韓国語
竹内なぎ（教育学部４年）　中国語
牧　伸治（経済学部４年）　中国語
（他　韓国語２名）

言語サポーター
中国語２名、韓国語２名、その他有志数名

【ランゲージシャワーについて】

プログラムとしての背景：

学内では多様な文化・言語に触れる機会がある。たとえば、様々な言語圏から来ている留学生との交流、国際交流プログラムへの参加、外国語で開講されている授業の履修など。しかし、外国語でのコミュニケーションに「自信がない」、「自分にはレベルが高すぎる」と感じ、そういう場に入りたいと思っても踏み込めないでいる人がいる。また、第二外国語として勉強してきた人や、留学を経験した人が、習得した言語をもっと使いたいと、その機会を探している場合もある。そのため、誰もが気軽に参加でき、“間違っても良いから、とにかく外国語で聞き、話し、ディスカッションする”場を提供できないかと、2007 年度に留学生センターワークショップの“世界の言語・文化を学ぶ”において、１回のセッションが開催された。2008 年度から、引き続き同ワークショップの一環として提供されているが、プログラム名を「ランゲージシャワー」とし、学生が主体でセッション企画、運営及び実施を行うものとなった。

特徴：

参加者を、使いたい同じ言語で小人数（４～５名以下）のグループに分け、出来るだけその言語だけを使ってゲームに挑戦したり、身近で話しやすいテー

マで会話を楽しんだりする。各グループには、会話を盛り上げるなど、コミュニケーションを助ける役割の学生ファシリテーターが１名以上加わる。

学生ファシリテーターは、プログラムの企画、運営、実施を行なうが、各言語レベルは問わず、参加者と一緒に言語を練習しながらコミュニケーションを楽しむことができる。また、グループでの役割だけでなく、セッション全体の司会・進行にも挑戦できる。

一般参加者には、使いたい言語の基礎知識を有していることが条件となっている。セッションは、参加者の言語レベルにもよるが、主に「中級に達しないレベルの人が挑戦できる」内容のものを用意し、中級レベルでの学習を終えている参加者には、他の参加者のコミュニケーションを助ける役割を担ってもらうことを期待している。

また、可能である限り、その言語を母語とする、あるいは得意とする学生をプログラムの「言語サポーター」として講師依頼し、分からない／間違って使用している単語や表現を直してもらう。

授業ではないので、リラックスして、間違っても良いから、発語を繰り返すことで自信をつけ、同じ言語でも、癖、使う言葉に違いがあることに気づき、それを楽しんでもらう。

【2013 年度の活動について】

前期・後期に分け、各期２回以上のセッションを実施。学生ファシリテーターが中心となってセッション内容を企画し、言語サポーターの協力を得ながら実施した。

（実施概要は、【2013 年度公開セッション記録一覧】を参照）。

（前期）

中国語を練習するグループ、韓国語を練習するグループを設けた。参加者の言語レベルを問わず、興味があれば誰もが気軽にグループに参加できるようにしたが、初習者と既習者がレベルの差を気にせず楽しむには、工夫が必要と思われた。

中国語グループは、母語話者の参加も多く、生きた言語を練習しながら身近な趣味や文化について意見交換し、語学の向上だけでなく、新たな友人を作ることもできた。

韓国語グループにおいては、初回に他大学からも興味を持った学生や初習者

の参加があったが、次第に参加人数が少なくなり、また協力者も時間的に活動が難しくなり３回の開催になった。その後、セッションとしての開催ではなく、練習したい人がいれば個人的に連絡を取り合って集まる形を取った。

（後期）

前期ファシリテーターが留学、就活等で後期の活動が難しくなったため、LS の充電期間として休止する予定だったが、過去に中国語グループに参加し、その後、中国留学を経験したファシリテーターと、中国語母語話者、中国語のセッション企画、実施を支えてくださっている学内スタッフが協力して、少人数ではあるが、中国語グループとしてセッションを開催することとなった。学内広報により少数の参加希望者からメールがあったが、その後参加には至らず、次年度に向けてのセッション考案・練習、活動者自身の言語レベル向上、先輩からの貴重なアドバイスをもらうなどの貴重な機会となった。

学生スタッフの声

前期活動を通して思ったことは、なかなか参加者が集まらなかったこと。興味ある人がいないのか、時間帯がよくなかったのか、情報が届いてないのか…。
参加希望者一覧のうち、半分以上は来なかった気がする。まだ情報が少なく、来づらいのかもしれない。
また数回来てくれた人も、最後はあまり来なくなってしまった。その人たちにまた楽しんで来てもらえるような工夫が足りなかったと感じた。」

（中国語グループ　前期ファシリテーター）

韓国語だけに関わらず、言語のレベルがあまりにも個人で違うため、なかなか一斉にやるのは難しいのでは、と感じた。
参加者もほとんど ACE 関連の人ばかりとなり・・・。韓国語をみんなで勉強するというのも良いが、留学生の友達を作ろう！という名目でスタートして、そこから言語学習に発展するとス ムーズに行くのでは、と思った。

（韓国語グループ　前期ファシリテーター）

全体的にとても充実していた。
協力してくれた中国人、台湾人の学生のおかげで楽しく活動をすることができた。自身の語学力が向上した他に、活動を通じて仲のいい友人が作れたのもよかった。また、留学から帰って来たらこのような活動ができたらと思う。

（中国語グループ　前期ファシリテーター）

ランゲージシャワーでは、中国語を学習したことのある人を中心に、中国語の会話を楽しむ目的で活動をしてきた。今年度の活動内容としては、様々な方法の自己紹介や、中国語で日本の歌を歌ったり、留学経験者による写真を見ながらのプレゼンテーションや、それに対する質問を中国語で行ったりした。中国人の留学生も参加してくれて、正しい表現を教わりながら楽しく進行することができたと思う。中国の文化を理解する目的で餃子パーティも開催。
お昼休みや空き時間を利用して一時間程行ったが、来年度からは曜日を固定し、一時間半程行っていく予定。そして、人数が少ないままだったので、来年度は４月から広報活動を積極的に行い、新しいメンバーとともに更に楽しい時間を作れるように頑張っていきたい。

（中国語グループ　後期ファシリテーター）

【2013 年度　公開セッション記録一覧 】

日時	セッションテーマ	練習言語•参加人数
5月 13 日 14:45-16:15	自己紹介で話題を膨らます。中国語の歌「十五の君へ」を歌う。	中国語６名
5月 14 日 14:45-16:15	自己紹介をし、夏の予定について話し合う。しあわせなら手をたたこう」を歌う。	韓国語9名
5月 20 日 14:45-16:15	子供のころの思い出、雨の日は何をするかについてグループディスカッションをしました。	中国語
5月 21 日 14:45-16:15	雨の日は何をするかについてグループディスカッションをし、韓国語の歌「最愛」を歌う。	韓国語
5月 27 日 14:45-16:15	自分を色に例えると何かを考え、折り紙を使って色にまつわる日中の文化を比較。	中国語
5月 28 日 14:45-16:15	参加者少数のため、韓国語と日本語を韓国人の友人と、ファシリテーターで互いに教え合う。	韓国語
6月３日 14:45-16:15	中国の代表的な漢文を紹介をしてもらう。日常的なトピック（趣味、夢など）について２～３人のグループで話し合う	中国語７名
6月 10 日 14:45-16:15	名大祭について、日中台湾における学祭並びに学生生活について話し合う。	中国語４名
6 月 17 日 14:45-16:15	JPOP の中国語カバー曲を暗唱。中国語の若者言葉やネット言葉について教えてもらう。	中国語３名
6 月 24 日 14:45-16:15	日中台の流行語、文化、タブーについて話し合う。	中国語６名
7 月１日 14:45-16:15	中国語の擬音語について日本語と比較しながら考える。台湾での流行語について教えてもらう。	中国語６名
7 月８日 14:45-16:15	中国大陸での流行語について教えてもらう。日本と中国での就職活動の違いについて話し合う。	中国語５名
1 月８日 12:10-12:50	自己紹介、参加者同士質問し合う。次回のテーマについて話し合う。	中国語３名
1 月 15 日 12:10-12:50	「私の夢」をテーマで各自発表し、質問し合う。 森山直太朗の「さくら」の中国語 ver.を歌う。	中国語３名
1 月 20 日 12:10-12:50	「私の夢」をテーマで各自発表し、質問し合う。 「さくら」の中国語 ver.を再唱。	中国語３名
1 月 27 日 12:10-12:50	中国留学の経験を話す。今後の予定話し合い。	中国語２名
2月3日 12:10-12:50	今後の予定話し合い。フリートーキング	中国語２名
その他、2月１８日夕方、地域のコミュニティーセンターにて、中国語で水餃子作りを学び、メンバーで楽しんだ。		

【参考】

セッション開催案内ポスター

ランゲージシャワー
中国語グループ
Language Shower
Chinese Group

中国語がもっと話せるようになりたい！中国語を使う場がほしい！
でも、自分の中国語にあまり自信がない･･･そんなあなた！！！！
ランゲージシャワーに遊びに来ませんか？　間違いを気にせず、どんどん話しましょう！
We can provide a chance to use your Chinese and improve your Chinese. Even you don't have the confidence with your Chinese, you can feel free to join us. Don't afraid of making mistake! Lets speak and have some fun!

May 13th to July 8th　Every Monday
Nagoya University
14:45-16:15 ECIS（留学生センター）Room 302

実際に使える中国語を、中華圏留学経験者、中華圏出身者を交えて、「楽しく無理なく」をモットーに習得します。またこの活動に協力して下さる中国語のネイティブスピーカーも募集しております。中国語の基礎知識のある方を対象としていますが、興味があれば、初心者も大歓迎です。参加人数を把握したいので、参加希望の方は下記の連絡先に御一報ください！！
Our aim is to learn useful Chinese with fun. We also welcome native Chinese speakers who help us. This program is oriented for those who have the basic knowledge of Chinese. However we also welcome beginners. Please send a message to the e-mail address below because we need to know how many people come to this event.

参加希望の方は①～④までの内容を明記の上、下記メールアドレスまでお申し込みください。
Please apply via email with ①～④
①氏名（フリガナ）Name　②国籍 Nationality　③所属・学年 School・grade(status)　④中国語のレベル Chinese level（初級 basic・中級intermediate・上級 advanced）
申込み・問合せ先：Application & Inquiries：adv@ecis.nagoya-u.ac.jp
名大留学生センターアドバイジング・カウンセリング部門(IB館)　田中／ふみ
Tanaka & Fumi, ECIS Advising & Counseling Services(IB Bldg.), Nagoya Univ.
主催：名大ランゲージシャワーボランティア学生、留学生センター
Organized by NU Language Shower student volunteers & ECIS

ランゲージシャワー　企画者
生命農学研究科　M1 津田康介
多元数理学研究科　M1 岡田優士

ランゲージシャワー
韓国語グループ
Language Shower
Korean Group

韓国ドラマ、K-POPがきっかけで韓国語を学び始めたはいいものの・・・もっと話せるようになりたい！韓国語を使う場がほしい！！　でも、自分の韓国語にあまり自信がない・・・そんなあなた！！！！
ランゲージシャワーに遊びに来ませんか？　間違いを気にせず、どんどん話しましょう！
We can provide a chance to use your Korean and improve your Korean Even you don't have the confidence with your Korean, you can feel free to join us. Don't afraid of making mistake! Lets speak and have some fun!

実際に使える韓国語を「楽しく無理なく」をモットーに習得します。またこの活動に協力して下さる韓国語のネイティブスピーカーも募集しております。この活動は韓国語の基礎知識のある方を対象としていますが、興味があれば、初心者も大歓迎です。参加人数を把握したいので、参加希望の方は下記の連絡先に御一報ください！！
Our aim is to learn useful Korean with fun. We also welcome native Korean speakers who help us. This program is oriented for those who have the basic knowledge of Korean. However we also welcome beginners. Please send a message to the e-mail address below because we need to know how many people come to this event.

한　　국

May 14th to July 9th　Every Tuesday
Nagoya University
14:45-16:15　ECIS（留学生センター）room 207E

参加希望の方は①～④までの内容を明記の上、下記メールアドレスまでお申し込みください。
Please apply via email with ①～④
①氏名（フリガナ）Name　②国籍 Nationality　③所属・学年 School・grade(status)　④韓国語のレベル Korean level（初級 basic・中級intermediate・上級 advanced）

申込み・問合せ先：Application & Inquiries：**adv@ecis.nagoya-u.ac.jp**
名大留学生センターアドバイジング・カウンセリング部門(IB館)　田中／ふみ
Tanaka & Fumi, ECIS Advising & Counseling Services(IB Bldg.), Nagoya Univ.
主催：名大ランゲージシャワーボランティア学生、留学生センター
Organized by NU Language Shower student volunteers & ECIS

ランゲージシャワー　企画者
生命農学研究科　M1 津田康介

ポスターは、口コミや、学内掲示したり、国際教育交流センター（旧留学生センターのHP（http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/exchange/workshop.html）内に掲載して広報。

留学のとびら

Gateway to Overseas Studies

留学のとびら

2013 年度　活動報告

（文責：佐藤拓磨、竹田文香、青木勇磨）

「留学のとびら」について　「留学」に興味・関心のある学生が主体となり、名大生の派遣留学を推進する団体である。国際教育交流センター・海外留学室が母体となり、イベントを企画・運営するという活動を通じて、多様な背景を持つ留学仲間をつくり、自立した団体運営ができるようになるための手法を学べることが大きな特徴である。

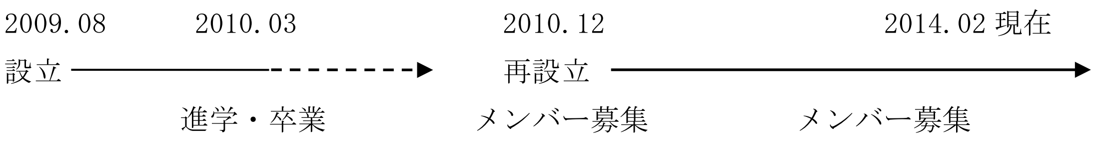
活動理念

- 一人一人が個性とリーダーシップを発揮し、互いの成長を刺激し高め合える団体。そして、大学生活を充実させられるような笑顔あふれる団体。
- 留学を希望する名大生に、情報入手・交換の場を提供し、自らが見本となることで彼らのモチベーションを上げ、実行へ繋げていく。

設立の経緯と活動の流れ

2009 年に留学より帰国した学生が設立した「留学のとびら」であるが、2010 年より主要メンバーが卒業ならびに進学のため活動が難しくなった。そのため、海外留学室が主体となり、2010 年 12 月に新たにメンバーを募集して再設立したのが現在の「留学のとびら」である。

構成メンバーのほとんどが留学する学生であったため、2011 年度,2012 年度とも主要メンバーの入れ替わりが激しかった経緯がある。2013 年度では、2012 年度の主要メンバーの半分以上が卒業してしまったために、前期の活動中留学帰国者や友人の中から新メンバーを募集した。



このような経緯から、本報告書では「2012 年度前期」「2012 年度後期」について個別に紹介する。

2013 年度前期

メンバーについて

2013 年前期では、海外留学室が行っている「海外留学入門セミナー」にて新規メン

バー募集の広報活動を行った。しかし、実際に興味を持ち留学のとびらのミーティングに来る学生はおらず、新規メンバーを獲得することはできなかった。そこで、留学していた5月、6月に帰国してくる学生や、メンバーの友人等を新メンバーとして誘い入れた。結果として、半分ほどのメンバーが前期から参加した顔ぶれとなり、団体として新鮮さが増した。

2013年前期の活動について

昨年度までは、議論も含め、佐藤拓磨（工学部 4 年）を代表として運営を行っていた。今年度は、メンバーの平均学年が上がった事もあり、時間をかなり割かなければならない代表という立場に、誰かを指名する事は難しかった。そのため、佐藤拓磨と杉江良祐（工学部 M1 年）の二人を中心とし、メンバー一人一人が活動に深くかかわる事で運営を行った。前期最大のイベントである「留学フェア」に向けては1週間に1回ほどミーティングを開き、内容を詰めていった。

良かった点としては、昨年よりもメンバーの一人一人の負担が平等であったことである。留学フェアにおいてのビラ作成、広報（ビラ配り）、司会などの仕事を上手く分担出来るようになったという点で、団体としても成長した事を感じた。

反省点としては、留学や就活のために後期からあまり活動に参加できない佐藤や杉江を中心に行ったために、後期への引き継ぎが上手くいかなかった事である。組織運営を円滑にするために、活動経験のある二人を中心に行ったが、長期的な視点で考えると、前期の時点で、新メンバーとも留学のとびらについて、また活動指針について深い議論をしておくべきであった。

実施イベント

<u>名大生のための海外留学フェア</u>

実施日：2013年7月3日（水）15:00～18:00

実施場所：ベンチャービジネス・ラボラトリー　ベンチャーホール

内容：

第一部留学に関するプレゼンテーション

A.　これから留学する学生によるプレゼンテーション

内容：「何故留学するのか？」

（経済学部3年　2013年度米国ケンタッキー州大学1年留学予定）

B.　留学帰国学生による留学体験談

内容：現地での生活の様子、留学費用、留学による変化など

（工学部3年　2012年度米国シンシナティ大学1年留学経験）

C.　留学とキャリアについての説明

内容：「留学経験をその後に生かす

～就職と就職後のキャリアへのインパクト～」

（名古屋大学国際交流協力推進本部

キャリアデベロップメントオフィス　今井千春様）

第二部：フリートーク

様々な留学経験者と自由に交流できる場

スタッフ人数：20名超（フリートークの留学経験者を含む）

来場学生数：約60名

反省

昨年度は、前期の留学フェアの来場者数が90名を超えた事を考えると、今回の留学フェアでは、来場者数は比較的少なかった。原因として、海外留学室でも留学に関するイベントを頻繁に開催しており、留学のとびらのイベントの希少価値性が薄まっている事が考えられる。

今回の留学フェアでは、留学前の意気込み・留学への動機、実際の留学経験、留学経験のキャリアへの生かし方、というように、さまざまかつ長期的な視点で来場者に留学のビジョンを捉えてもらえるようにプログラムを構成した。また、プログラム第一部のAとBのプレゼンに関しては事前にメンバーがプレゼンを確認しあい、内容としては非常に濃いものとなり、フェアを共に築きあげたメンバー間にも絆が生まれた。しかしながら、先に述べたように来場者数を考慮すると、留学フェアの需要が昨年度より減少している事を感じたフェアでもあった。海外留学室が主催するイベントの内容とのバランスも考慮し活動していく事が、後期の課題となり、議論の結果、昨年度までは年に2回行っていた留学フェアを前期のみの1回に減らすことが決定した。

イベント終了後の記念写真

2013 年度後期

前期の中心メンバーであった佐藤琢磨がイリノイ大学に交換留学を機に、代表を杉江良祐にまた副代表を青木勇磨として運営を行っていった。

活動としては、後期は前期に比べ名古屋大学から交換留学に行く学生をサポートする形に活動をシフトした。具体的には、昨年度に引き続き交換留学応募学生のための面接説明会の開催と、交換留学オリエンテーションの中で交換留学生に対して「12 月から何をすべきか」という内容のプレゼンテーションを行った。

また毎週のミーティングに関して、前期は留学フェアを開催することに時間を割いていた。しかし後期は、留学のとびらのメンバー各個人の留学経験を発表する時間をミーティング中に設け、その中でお互いの理解を深めること。さらに発表者が留学した大学に行く予定の学生に声を掛け、交換留学に対してのイメージを持ってもらうことに努めた。

反省点として、メンバーの半数が2014年度の交換留学生ために、来年度以降の運営に多少の不安があること、また研究、卒業、就職活動等で実質的に動けるメンバーが少なかったことが挙げられる。さらに新メンバーを大幅に得る事ができなかったため、来期に改めて募集を行う必要がある。

実施イベント

＜平成26年度交換留学応募学生のための面接説明会＞

日時：2013 年 10 月 31 日（木曜日）12：15 から

場所：国際教育交流センター（旧留学生センター）2 階　201 号室

対象者：平成 26 年度大学間協定校への交換留学に応募した学生

スタッフ:5名

参加者:15名程度

内容

面接説明会では、過去の交換留学経験者が面接での体験を話すという形で説明会を行った。具体的な内容としては、面接がどのような形式で行われたのか、またどういった質問を受け、それに対して発表者側はどう答えたのかというものであった。

感想・反省：面接開始時期の確認が遅れ、イベント開催時期の決定と告知が遅くなったため、参加者を十分に集められなかった。イベントの周知のためにはせめて一週間くらい前には留学応募学生にイベント告知をするべきであった。参加者からは「役に立った」「面接がどのようなものか分かってよかった」との声を聴くことができ、イベント自体は成功したと言える。

交換留学事前オリエンテーション

日時:2013年12月11日(水曜日)17:00から

場所:国際教育交流センター(旧留学生センター)２階　CALEフォーラム

対象者:平成26年度交換留学候補生

発表者:青木勇磨,佐藤祥平

参加者:30名弱

内容：

　海外留学室主催の留学事前オリエンテーションの一環として、留学のとびらのメンバーの青木勇磨が、交換留学経験者の立場から「12月から始める留学の事前準備」という題目でプレゼンテーションを行った。

感想・反省：オリエンテーションの一環として、留学のとびらのメンバーが発表する形をとったが、メンバー全員で内容を詰めて発表する形をとれなかったことは残念であった。ただし、やった内容としては今後につながるものであるので、来年度以降も留学のとびらとして海外留学室主催の交換留学生向けのイベントに積極的に関わっていきたいと考えている。

後期の反省

後期は留学フェアを行わなかったこと、また来年度に向けてホームページ作成などの新しく始めたこともあり、対外的な活動としてはあまり目立ったことを行わなかった。そのため、留学に興味がある学生からも留学のとびらの活動の認知がされていず、さらに非常に閉鎖的な集団として受け取られている。ただ後期は、各個人が新しい企画の責任者といて、試行錯誤しながら新しい企画を立ち上げているのでこの取り組みを来年度以降に繋げていきたいと考えている。

来年度への抱負

留学のとびらは他の留学団体に比べ、留学生と直接関わる機会が少なく新規メンバーを集めることに苦労している。ただし、留学のとびらの本来の目的は、各メンバーが個々人で責任あるイベントを企画運営することで、協力性を身につけ、イベントを企画する楽しさと成功した時の達成感をメンバー全員で分かち合うことのできる団体作りをしていくことにある。そのことを、来年度は年度初めから説明会を開催したりして、対外的な広報活動でアピールしていきたい。

MEIPLES

名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム

The MEIDAI PROGRAM for GLOBAL LEADERS

IF@N

名古屋大学国際学生フォーラム

The International Students Forum at Nagoya University

名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム MEIPLES
第 4 回名古屋大学国際学生フォーラム IF@N
2013 年度 活動報告

編集：崔　敏

1. はじめに

名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム（以下 MEIPLES）と名古屋大学国際学生フォーラム（以下 IF@N）は本年度で 4 回目を迎えた。MEIPLES では、グローバル化が進む現代社会において、活躍が期待されるグローバル人材に成長するために必要と思われる知識やスキルを体験的に学んだ。具体的には、異文化コミュニケーション能力、多文化理解能力、柔軟性、創造力、ディスカッション能力、ファシリテーション能力、問題解決能力、協働する能力、交渉力、実務能力、企画・運営能力、ピア・サポート能力などのグローバル・リーダーに求められる様々な能力を 2 週間に 1 回ほど、セミナーを通じて体験学習した。異なる背景を持つ各学部・研究科の日本人学生・留学生が MEIPLES に集まり、それぞれの個性を発揮しつつ、互いに刺激し合って成長していった。

後期では前期 MEIPLES のセミナーで身に付けた能力を活かすべく、IF@N の運営・開催に努めた。週 1 回の全体ミーティングと不定期の分科会別ミーティングを通じて、分科会テーマ設定及び具体的内容構成、ポスター制作、参加者募集などを試行錯誤しながら進めていった。このような一大イベントの企画・運営は、実行委員全員にとって初めてのことであり、戸惑いも多々あったが、互いに短所はカバーし合い、長所は活かし合うことで何とか IF@N の開催こぎ着け、成功を収めた。

IF@N では、名古屋大学をはじめ、愛知県内各大学の日本人学生と留学生が一堂に集い、互いに日本語・英語を駆使し、自由且つ活発に討議を行い、国際理解・相互理解を深めることができた。IF@N には「出会う、繋がる、広がる」という理念がある。フォーラムの参加者をはじめ、実行委員と関係者たちが IF@N を通じて出会い、繋がり、更にその出会いと繋がりを広げて行ってもらうことこそが、IF@N が目的としているところであり、その意義でもある。

本年度の MEIPLES & IF@N は、「グローバル・リーダー育成」という趣旨と、「出会う、繋がる、広がる」という理念が見事に実現できたものであったと、自信を持って紹介させていただこう。

2. MEIPLES & IF@N メンバー

前期（MEIPLES）活動メンバー

加納　佐知子　（経済学部）	西澤　薫　（法学部）	山崎　真照（多元数理科学研究科）
田中　佳織　（経済学部）	稲垣　覚子　（文学部）	高橋　亜友子（国際言語文化研究科）
小川　理沙子　（経済学部）	加藤　真穂　（文学部）	LARSSON Sebastian（経済学研究科）
市原　紫音　（経済学部）	後藤　翼　（工学部）	
中野　成崇　（法学部）	今井　健太　（工学部）	
松本　未希子　（法学部）	崔　敏　（工学部）	

後期（IF@N）活動メンバー

崔　敏　（工学部）	加藤　真穂　（文学部）	Maria Robold（文学部）
稲垣　覚子　（文学部）	西澤　薫　（法学部）	Carolin Schultz（教育発達科学研究科）
田中　佳織　（経済学部）	今井　健太　（工学部）	
後藤　翼　（工学部）	小川　理沙子　（経済学部）	
松本　未希子　（法学部）	市原　紫音　（経済学部）	

3. 名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム（MEIPLES）

＜前期スケジュール＞

5 月 29 日（水）	第 1 回セミナー：キックオフ
6 月 19 日（水）	第 2 回セミナー：自己発見と他者理解 ＜ねらい＞ 自己発見や他者理解を深める、グローバル･リーダーについて考える
6 月 26 日（水）	第 3 回セミナー：異文化コミュニケーション ＜ねらい＞ コミュニケーション・ギャップの体験から、文化には固有の習慣や価値観があることを理解する
7 月 20 日（土）	第 4 回セミナー：外部講師によるワークショップ ＜ねらい＞ 自分を知る、身体感覚とつながる、ビジョニングと パーソナル・リーダーシップ理論を学ぶ 多様な背景の仲間と共同作業をしていくための心構えやスキルを身につける

8 月 3 日（土） ～ 8 月 4 日（日）	第 5 回セミナー：問題解決、実務セミナー ＜ねらい（問題解決）＞ 問題解決体験学習で何を学ぶことができるかを、体験を通して知る 問題解決体験学習を通して、その過程で起こる様々な事柄に気付く ＜ねらい実務セミナー＞ 議事録やアジェンダの作成方法などのスキルを身につける ミーティングを体験してみる IF@N のディスカッションテーマ、役割分担について考える

＜活動風景＞

4. 名古屋大学国際学生フォーラム（IF@N）

I.　各ディスカッショングループの紹介（第 4 回 IF@N 報告書より引用）

Group A：インターネット

ネット社会～SNS との理想の付き合い方～

皆さんは現在、SNS を活用していますか？

ご存知のように、SNS とは、ソーシャルネットワーキングサービスの略称であり、Facebook、twitter、mixi などのことを指します。インターネットが普及し、誰もが簡単に世界中の人と繋がることができ、世界中の情報を手に入れることができるようになりました。そんな中で SNS というのは、大変便利なサービスであることは間違いありません。

しかし一方で SNS の利用者に関連した事件が増加しています。最近では SNS を通じて出会った人に高校生が命を奪われてしまうという痛ましい事件がありましたが、SNS 関連の事件の被害者の多くは未成年です。また、アルバイト店員が SNS に不適切な写真を投稿する事件が多発するなどネット利用のモラルが問題視され、私たち利用者が SNS との付き合い方をもう一度よく考える必要があると思われます。

まず、SNS の光と影の部分について再確認し、それをふまえ自分自身の利用方法について見直します。また、過去に起きた複数の事件をトピックにあげ、みんなでディスカッションしていきます。このディスカッションを通して、問題が起きている原因は何なのか、犯罪被害に遭わないためにはどうすればよいのかを考えていきます。

今後、ますます広がるであろうネット社会のなかで、どのように SNS と付き合っていけばいいのか一緒に考えていきましょう。

Group B：教育

教育アクセスへの障がい～救え！学校に行けない子どもたち～

世界には毎日学校に行けない子どもたちがいます。家庭の事情であったり、健康面の問題であったり、経済面の問題であったり、理由はさまざまです。教育を受けられない子どもたちの将来はどうなってしまうのでしょうか。社会の中で生きていく力を身につけるためにも、子どもたちにとって教育は必要不可欠なものなのです。

このグループでは、教育アクセスの障がいとなっているものは何かをさまざまな角度から考え、すべての子どもたちが教育を受けられるようにするにはどうしたらいいのか、私たちにできることは何かについて議論していきたいと思っています。

Group C：環境

都会の中のオアシス

現代化が進むにつれ、経済も人口も都市に集中してきています。特に大都会ともなると、その規模はすさまじく、未だかつてない人口密集型の巨大都市と化しています。そんな都会の中で暮らす人々は、希望や憧れ、活力に満ち溢れている反面、大自然の息吹を感じ取ることの出来ないコンクリートの箱の中で、日々重圧にさらされ、もだえ苦しんでいます。

そんな都会の人々を救う方法はないのでしょうか。そのヒントは、都会の中で息づく「森」にあるのかもしれません。

都会で生きる人々を癒す「森」について、一度じっくり考えてみませんか？森は私たちに何をもたらしてくれるのか。人の心を癒してくれる都会環境とは何なのか。都会の快適さと森の持つ癒しをどう融合すべきなのか。その究極の答えを、一緒に探りましょう！

Group D：ジェンダー

仕事と家庭～男性と女性の役割、あなたの国では…？～

近年、世界中で男女の役割が変化してきています。しかし、その変化の意味や男性と女性の役割について深く考え、議論したことはありますか。「男性は男性らしく精神的に強くあるべきだ」や「女性は女性らしく振舞わなければならない」と聞くことも決して少なくありません。では、その「らしさ」とは一体何なのでしょうか。

ジェンダーとは、「生物学的な性別を示すセックスに対して、社会的・文化的に形成される性別(広辞苑)」とあります。私たちは性によって、あるいは文化的、社会的背景によって求められる役割が異なっています。かつては、「男性なのだから働いて家族を支えなければならない」「女性なのだから家で子どもの世話をしなければならない」などの考えが一般的だった時代もありました。しかし今は、女性の社会進出が著しく、男性が家事をすることも珍しいことではありません。そのような変化を、私たちはどのように受け止め、対応していけばいいのでしょうか。

身近に感じる性差についての意見を交わしつつ、将来、男性「らしさ」女性「らしさ」はどのように変わり、それぞれ何が求められる時代になっていくのかについて、主に仕事と家庭に着目して話し合ってみませんか。理想的な男女の関係・役割とは何か、日本だけではなく世界にも目を向けて一緒に考えていきましょう。

Group E：政治

もし若者の投票率が 100%だったら、世の中変わっちゃう！？

あなたは成人したら投票に行きますか。また、成人している人は、今、投票に行っていますか。「自分が投票する一票で選挙結果なんて変わるわけないじゃん？」と思っているそこのあなた！政治って難しいからどの政党もよく分からないと嘆き、投票に行かず一票を価値のないものにしているそこのきみ！知っていますか？過去、日本に限らず、選挙権を求めて内乱や戦争が起きたこともあったんですよ。まさに！その一票は自分の意見を唱えることができる唯一の権利なんです！しかし、今の日本の若者の投票率は国際的にもとても低く、政治に対しても無気力、無関心の人々が増えています。一方で、世界に目を向けてみると、投票率ほぼ１００％の国、若者の政治的関心が高い国が多くあります。(実は選挙に行かないと罰金や罰則を科せられる国もあったりするのですが・・・)。そんな世界の国々の選挙の実態を紹介したり、政治に対する率直な気持ちや不安な思いをシェアしたりすれば、これからの未来、国を担っていく一員として成長できること間違いなし！楽しくディスカッションしましょう！

今政治に関心がない若者がもし全員投票して、自分の意見を述べれば若者のためのマニフェストや公約が増えると思いませんか？若者や学生のための政治 or 政策を唱える政党が増えるかも！わたしたちにとってよりよい世の中になっちゃうかも！いつやるの？いまでしょ！

II. アンケート（一部抜粋）

◆ 参加者　24 名（実行委員を除く）　　提出枚数　23 枚　　回収率　96 ％

① ディスカッショングループ構成（実行委員を含む）

A. インターネット（日本語）	7 名（2 名）
B. 教育（英語）	9 名（1 名）
C. 環境（日本語）	6 名（3 名）
D. ジェンダー（日本語）	7 名（2 名）
E. 政治（英語）	7 名（1 名）

※ 括弧の中は使用言語と留学生数

② 参加理由

a. 留学生や日本人と交流したかった	14/23(61%)
b. 友達を作りたかった	7/23(30%)
c. ディスカッションテーマに興味があった	8/23(35%)
d. 視野を広げたかった	10/23(43%)
e. 日本語や英語を使いたかった	12/23(52%)
f. その他(友人の頼み、昨年参加して良い時間を過ごせた)	2/23(09%)

③　参加者の感想（一部抜粋）

- ファシリテーターが事前にしっかりと準備してくれていたので、自己紹介から議論を始めるまで和やかにスムーズに進めることができました
- Every member in group C was sociable and friendly, therefore it was easy to communicate.
- People were open minded and very warm forwards people they know for the first time.
- トピックが難しくて、自分の意見を英語で表現するのがとても難しかった。でも、いい勉強になりました。
- 幅広い意見を聞くことができて非常に実りのあるものとなりました。英語のネイティブスピーカーが議論のメンバーにいなかったことが少し残念でした。
- ジェンダーのテーマは本当に面白かったです。日本人と留学生の立場から見せてもらって勉強になりました。
- 最初は知らない人ばかりでどうしようかと思ったのですが、どの人も気さくな方で楽しく、また色んな人の話を聞けて良かったです。
- みなさん、様々な意見を言ってくださったので、とても面白かったし、英語を使ってDiscussion 出来て良かったです。
- プレゼンの準備のことを考えると少し短かったように思います、もう少し長かったら、さらに深い議論ができたと思います。
- 初対面の人がほとんどでしたが、和やかな雰囲気で進み、話も盛り上がって有意義な時間が過ごせました。
- The balance for brainstorming and finding solutions was a bit poor. We stated out with a very broad view which did not help much for the last stage. This is a great opportunity to learn teamwork and brainstorming!
- 皆がそれぞれ自分の考えをきちんと話していて、聞いていてとても面白かった。国によってそれぞれ違いも共通点もあったが、SNS は本当に多くの人に利用されているのでこれからますます大切になるトピックだと思う。
- 本当に楽しかったです。面白い話ができて良かったです。日本人の学生達の方からやさしくて知らない日本語の言葉が教えてくれてありがとうございます。
- 留学生と話すことで、それぞれの国の事情や現状を聞くことができ、さらなるディスカッションへ発展できたのが良かった。
- I was really great to meet the members of my group. The theme was very interesting. We could imagine the eco-city for eternity.
- テーマが奥深いので、結論をまとめるのが少し難しいと思いました。同じテーマで各グループ話し合っても良いのではないかと思いました。(各テーマバラバラではなく)
- 意見交換ができて楽しかったです。みなさんの考え方を分かることができて、異文化理解の学習にもなりました。

III. ミーティング記録

回	日時	内容
1	2013/9/4	分科会テーマ設定、ポスター案決定
2	2013/9/11	ナビゲーター・サブナビゲーター決定
3	2013/9/18	全体テーマ決定・ファシリテーター決定、facebook ページ作成
4	2013/9/25	役割分担
5	2013/10/2	使用言語・サブテーマ決定、ポスター完成
6	2013/10/9	広報・ポスター掲示、分科会の流れ、英語サポーター
7	2013/10/16	分科会会場決定、広報活動
8	2013/10/23	各係・分科会進捗報告、広報活動
9	2013/10/30	分科会進捗報告、分科会割り振り、備品決定
10	2013/11/6	発表会企画、アンケート、リハーサル・当日タイムテーブル確認
11	2013/11/11	リハーサル
12	2013/11/13	分科会連絡・参加者確認、当日の確認
13	2013/11/16	IF@N 当日
14	2013/11/20	IF@N 振り返り、アンケートシェア、報告書計画
15	2013/12/11	コラージュ作成
16	2013/12/18	収穫祭
17	2014/1/22	報告書校正
18	—	IF@N 報告書入稿
19	—	IF@N 報告書完成
20	—	IF@N 打ち上げ

IV. 今後に向けての課題

- 開会式の超過と自己紹介が長引いたことによりアイスブレーキングの時間が少なくなった。
- ブレインストーミングはうまくいったが、議論の段階で沈黙がやや目立った。
- ファシリテーターと参加者の距離感が気になった。
- 議論がそれた時、軌道に戻すのに苦労した。最終的にうまくまとめられなかった。
- 時間が短すぎてお互いの意見をよく聞いて理解する時間がなかった。
- 発表会の時間をもう少し長くとっておくべきだった。
- ディスカッションの時間に比べ、発表時間が短く、話し合った内容をすべて紹介しきれなかった。
- どの部分に焦点をあてて発表するかというところや発表形式もしぼれないまま発表になってしまった。
- 議論が盛り上がりすぎて、もっと深い議論ができなかった。

V.　実行委員の感想（一部抜粋）

- 名古屋大学国際フォーラム(IF@N)の実行委員として活動していく中で、普段普通に大学に通っていては感じること、体験することができなかったことがたくさんありました。
- バックグラウンドの様々な人たちと意見を出し合い、協力してひとつのものを作り上げることは自分にとってとても貴重な体験となりました。
- 一から IF@N を創っていく過程で、要領がわからず大変な思いや、難しさも同時に感じましたが、普段関われないような仲間と共に考え・少しずつ積み上げていった貴重な時間、当日出会った参加者との交流、共有した時間はかけがえのないものとなりました。
- 「グローバル人材」というと少し堅苦しいかもしれないけれど、現代に生まれた私たちにとって、IF@N で学んだことは海外を舞台に働くかどうかに関係なく日常的に必要な力になっていくと思います。
- MEIPLES の活動が始まり、それぞれ強い芯を持った実行委員メンバーと話し合いをしていく中で、少しずつ、思ったことを自分の中で留めず、他者に向けて発信できるようになりました。
- 議論の際、「この国では環境問題に対してこんな試みをしている」とか、「あの国での人々の生活のネックはここだ」など、海外の様々な情報や生の声がたくさん出てきました。
- IF@N に参加することの良さは「経験したことないこと学んだことのないことを学べること」です。これはファシリテーターとしてでも参加者としてでも同じことだと思えます。
- 想定していたように全てがうまくいったわけではないけれど、不安があったことを忘れるくらいには充実した一日を作ることができたのではないかと思います。
- みんなで、それぞれの分科会の準備だけでなく当日の仕事や当日までにすべきことを分担し、こつこつとこなしていき、誰一人として自分の仕事を投げ出さず最後まで責任をもって成し遂げることができたのは本当にすごいことだと思います。
- IF@N に関わった一年間は、私にとって、文字通り新たな挑戦の連続でした。日本人学生と外国人留学生の考え方の違い、ものの見方の違い、方法論の違いなど、ディスカッションを通じて感じてみてください。

VI. アルバム

5.　まとめ

今年度の MEIPLES & IF@N も一年を通じて、MEIPLES 参加者と IF@N 実行委員をはじめ、多くの日本人学生と留学生が出会い、繋がり、広がるイベントになった。来年度で第 5 回目という節目を迎える MEIPLES & IF@N であるが、更なる発展が得られることを、心より願っている。

名古屋大学
English College

名古屋大学 English College
2013 Annual Report

文責　文学部１年　植手淑乃

Ⅰ.Purpose

The goal of this organization is to provide opportunities to speak English. Many people in this university still have few chances to practice speaking English, but since there are more and more students who take interest in studying abroad or working abroad, it's necessary to have this kind of chances. For this reason, we'd like all people to have chances to speak English. That is why our activities are open to the public (students, professors, general citizens, etc.). It's ultimately up to the participants whether he or she can improve their English skills. We are providing the opportunities.

Ⅱ.Concept

English College is a group which provides opportunities to speak English in Nagoya University. Like the former organization NUELC, we belong to the Education Center for International Students.

Our two main activities are

1. Lunch English

This is an activity to talk with people in English during lunch time. We hold it twice a week.

2. Evening Discussion

The main goal of this activity is to practice expressing our opinions in English. The main targets are students that are planning to study abroad and those who are eager to study English. We normally hold it once a month.

Ⅲ.Activity

April – May

English College started with four members including two international students. It was not too small for only Lunch English, but as the discussion event started and our activities got broadened, we needed more members. Decision-making was done in the regular meeting, which was held in second periods on Wednesdays. In May, five people joined as members. It was good news but some members could not join the meetings because of their class schedule. We had the first Lunch English on 16th April this term. There were seventeen participants. Since this week, we held Lunch English every Monday and Wednesday. The number of participants showed a mild increase in May, which resulted from the advertisement on Facebook and the flyers. Then, we had the first Evening Discussion on 24th May. Since it was the first time for us to hold an event like this, some problems came to the front;

- only one person gave a presentation, so others did not have any chances to speak in front of people.
- many participants did not ask any questions, so only members did.

June - August

Like in the former period, we had Lunch English regularly, and it was well attended. However, as we had concerned before, the variety of activities in it was lost. We gave it something fresh by introducing several simple games which we could play while eating lunch. We also held Evening Discussion in June and July with a larger

number of participants. To solve our previous problems, we applied some new rules; each participants have to take charge of some parts of the presentation, and all participants have to ask at least one question to the group presenting. We made Evening Discussion better, but another problem arose. When we established English College and firstly planned to have discussion events, we wanted to make it rather serious, making participants realize how poor they are at speaking English and discussing in English. However now the purpose of the Evening Discussion is to try to talk about more difficult topics than those in Lunch English and enjoy discussing. Of course these are also important, but we had almost forgot our first purpose. This is mainly because of members' abilities to speak English and discuss in English, so it's not easy to make Evening Discussion more serious, but we should have made it a much better place to practice speaking English.

In August, we held an event called Movie Marathon in ECIS. In that event we watched 4 movies in English so that we could improve our listening skill. We invited some people who took the summer training course for IELTS, and had fun together. However, some of the movies we chose were too difficult to fully understand, so it was better to select easier ones such as Disney animations.

October – December

In October, we underwent a big transition; the leader of English College left Japan to study abroad. Since he had been doing almost all of administrative tasks of English College, it was a severe beating for us. Although he had decided who would have responsibility before his departure, it did not work practically. Besides, we didn't

have a regular meeting schedule, which brought about a decrease of opportunity for members to communicate with each other and use English. It might be one of the reasons for some members to become poorly motivated, being accompanied by the low participation rate for our activities. Although we continued to hold Lunch English on Mondays and Wednesdays, the number of participants didn't increase so much. We also planned to introduce some new games on our online meeting, but it ended up in nothing but a plan.

We had Evening Discussion only once in November. However we could not prepare enough because we had only few meetings for Evening Discussion. So it didn't proceed smoothly, and there were less number of attendants than were needed.

In December, we held our biggest event in this term, Christmas & New Year Party. In fact, it was also insufficiently arranged, but turned out to be successful; the participants were pleasant, cheerful and creative. They enjoyed themselves, so we didn't have to do so much to live up the party. More participants joined this event than Evening Discussion. This may be because;

- Japanese students felt free to join this event while they thought Evening Discussion was difficult and it gave a very formal impression.
- International students usually do not need to practice speaking English but they want to enjoy something with Japanese students. This was why more international students join this event than Evening Discussion.

January –

January 2014, we didn't act anything than Lunch English, because each member was

busy with something or other they had, and the final exam. We didn't post the first and last day of Lunch English on Facebook, which confused some repeaters of Lunch English. We should have had meetings during winter vacation in order to decide our plan and inform participants of it.

Ⅳ.Problem

As you can see by reading above, currently we have some problems. Here are written the problems we are facing and conceivable solutions:

General

・Not every member is able to join the meeting
→Take every member's schedule into consideration
Or make the meeting divided by teams.
・Obscure role sharing among members
→We need discussion after clarifying the job description
・Poorly motivated members
→Give incentives and merits of being a member
・Deficient administration without a leader
→More detailed plans and flexible reactions
・We didn't have regular meetings in the latter half
→We have to decide the agenda of the meeting before having it

For our Activity

・Always the same person is speaking
→Introduce contents where everyone can speak
・No distinction between a member and a participant
→Improve member's command of English
Give members the role of facilitator
・Decrease of participants and few increase of new participants
→Incentive advertisement and new contents

Ⅴ.Conclusion

It was the first year for us, Nagoya University English College. So we found some strengths and weaknesses.
Lunch English matched our intent to provide opportunities to speak English. However,

we members did not have enough abilities as facilitators. At first, our activity was different from other English speaking groups, so people felt it is rare and had some interests in us. After a while, the novelty was gone. Lunch English lost the variety of its activities and some people lost interests. We have to keep thinking of new ideas and carrying them out, improving existing activities.
We should consider the purpose of Evening Discussion, or even whether we should continue to hold this event. Although participants enjoyed discussing some complicated topics in English, we got fewer participants than we wanted. It is also important to have fun, but it does not match our first purpose. We will try to make Evening Discussion more serious so that it's more helpful for participants to improve their English abilities, or we may have to stop having Evening Discussion.
We realized our organization is not flexible. Without a leader, we could not manage English College. We had to decide each member's role clearly. We will lose some members because of their graduation from university, so we need more members. For this reason, we will try to clarify the differences between members and participants, and the benefit of members.

We found more problems than good points this year, but it is not bad because it means our activities can stand more and more improvements. We members should talk about these problems and how to deal with them. Next year, we will try to get over these problems that happened in our first year, and make a stable foundation.

異文化交流サークル ACE

Action group for Cross-cultural Exchange

1、ACE とはどのような団体か

文責　安藤翔太

≪活動概要≫

私たち ACE（Action group for Cross-cultural Exchange ）は、「交流・架け橋・ボランティア」を理念に掲げ、様々なプログラムで名古屋大学に訪れる留学生の生活のサポートや、また、月一回程度行われるイベントの企画・運営を行う学生団体である。

1988 年 6 月、留学生のサポートと、一般学生と留学生との交流の促進を図るため結成され、今年度結成 25 周年を迎えるに至った。

春と秋に NUPACE・国費留学生・G30（秋のみ）を中心に受け入れ活動を行い（内容については、2013 年度活動を参照）、その活動に対しての謝礼をいただき、ACE の活動資金として活動している。

≪組織編制≫

例年 6 月に行われる「まじめ合宿」をもって代替わりをする。今年度は 6 月より 26 代が中心となり活動をしている。現在、南山大学、愛知淑徳大学、金城大学、椙山女学院大学、愛知県立大学など名古屋大学以外の大学からも数多くのメンバーが活動に参加している。

役職については、代表 1 名、副代表 2 名、会計 1 名、広報 1 名、AFSA 班 3 名、ACE メール担当 1 名、メーリングリスト管理 1 名、ホームページ管理 1 名という構成である。

（※AFSA 班担当…愛知留学生会との連携において、月 1 回の AFSA 会議へ参加し、AFSA 主催のイベントのサポートなど運営に携わる役職

ACE メール担当…他団体や参加希望者への対応など渉外関係の仕事をする役職）

２、2013 年度 ACE 年間活動

名古屋ぶらり旅（5 月）

文責　森下実佐都

名古屋ぶらり旅は土日エコ切符を利用して、留学生・日本人一緒になったグループごとに与えられたミッションをクリアしながらチェックポイントを制限時間内に回るイベントである。ルールに従って、ポイントが加算され最終的な合計で順位が決められる。チェックポイントの例としては名古屋城・名古屋ドーム・熱田神宮など名古屋にいるなら行っておきたい場所ばかり。ミッションのクリアに加え、チームで協力して素敵な写真を撮ってポイントアップもある。最後はゴールの時間やそれぞれのタイムに応じてつけられたポイントで勝敗が決まり、優秀チームには素敵な賞品の授与がある。思い出づ

くりにもなり、名古屋も知れて、友好も深まる素敵な企画である。

今後の課題としては、留学生の人数が予想より少なく、日本人との人数比が偏った。どのように留学生への告知を行うかが課題である。また、名古屋周辺はもう知っているとの意見もあり、どこを目的地にするかも改善の余地がある。

まじめ合宿（6 月）

文責　塩澤光

運営を今の代から次の代へと引き継ぐ合宿。それに加えて新一年生に ACE についてもっと知ってもらおうという機会でもある。この合宿が明けるといよいよ二年生が運営の中心になっていく。

〇印象

レクリエーションなどを交えて新入生との交流を深めつつ「ACE とはどのような団体なのか」ということを知るいい機会になっていた。

〇課題

代替わりの話などでは新一年生がついていけない部分が多かったと思われるので、運営に関する知識なども新一年生に簡単に教える必要がある。

七夕（7 月）

文責：加藤優

〇七夕とは？

・7 月 7 日に合わせて 7 月上旬に行われるイベント

・新 1 年生が初めてチーフ、サブチーフを務め企画を進めるイベント

〇イベントの印象

・浴衣…参加者はできるだけ浴衣を着てくるようにするため、会場では色とりどりの浴衣を目にすることができ、日本文化を雰囲気から楽しめる

・大人数…毎年たくさんの留学生、日本人学生が参加をする印象

・芝居…七夕における彦星と織姫のエピソードを 1 年生たちが一生懸命演じたり、日本語や英語で七夕物語の説明もしたりする

・慌ただしい行事…6 月中旬に行われるまじめ合宿にて七夕のチーフを決定するため、七夕の準備は時間が無く、慌ただしくなる

・流しそうめん…毎年恒例、七夕目玉ブース

〇課題

・名古屋大学留学生の参加者をさらに増やしたい

・日本人学生の切り替えが遅い

キャンプ（8 月）

文責 山田麻実

場所：愛知県民の森　キャンプ場

参加者：ACE メンバー60 人・留学生 10 人

70 人という大所帯であったが、グループに分かれてゲーム、飯盒炊爨、キャンプファイヤー、スイカ割りなどを楽しんだ。かまどに火がつかなかったり、時間が押してしまいスケジュール通りに行かなかったりとハプニングもあったが、その都度参加者全員の協力によって無事に 1 泊 2 日楽しむことが出来た。キャンプという、いつもと違う環境で、いつもよりも留学生と話す機会が増えてとても良かったと思う。夏休みで帰国してしまった留学生も多く、ACE メンバーに対して留学生が少なかったことが課題点に挙げられる。

受け入れ活動（10 月）

文責　木下悟

〇イベント内容

ACE は受け入れ活動として、春と秋に入寮のお手伝い、キャンパスツアー、遠足を行っている。

手伝いをしているのは留学生会館、インターナショナルレジデンス東山、山手、妙見で、主に入寮手続きの手伝いや部屋の案内などを行っている。また、ACE が持つ近くの病院などが書かれたパンフレットも渡している。キャンパスツアーは NUPACE と G30 に対して行っており、NUPACE に対しては学内の郵便局 ATM や学食などの生活に重要な建物を中心に、G30 に対しては、それぞれの学部を中心に回っている。遠足では、名古屋の名所をグループでまわることや、また、春は参加者全員で東山動植物園に行くこともある。

〇課題点

夏の入寮のお手伝いをする時期が、学校の授業開始と被ることが多く、人手不足になり、３人の留学生に対して、１人のメンバーが同時に部屋案内をすることなどがある。留学生に対しての案内のクオリティーの安定化のためにも ACE メンバーの中でも入寮のお手伝いができる人員の確保が必要と思われる。NUPACE のキャンパスツアーにおいては、毎年 NUPACE のオリエンテーションの関係上、時間不足になることが多いので最短ルートの確立が必要である。

NUPACE キャンパスツアーでのお昼の写真

ハロウィーンパーティー（10 月）

文責　吉田智子

ACE のハロウィーンパーティーでは、ACE が運営を行い、留学生と日本人学生（名古屋大学・南山大学など）の交流を楽しみながら深めてもらうことを目的としている。今回は、名古屋大学のフレンドリー南部を貸し切って行った。グループに分かれてビンゴ大会を行い、仲を深め、友達の輪を広げ、その後は各自自由に写真を撮り合うなど、楽しんでもらうことができた。

秋企画（11 月）

文責　安藤翔太

メンバーの数が増え、なかなかメンバー同士内での親交が深められない、また、ACE という団体について ACE のメンバーが知らないということが問題となっていた。そこで、「ACE メンバーについて知る」「ACE という団体について知る」という 2 つのコンセプトで 2 日間の企画を行った。

さまざまなレクリエーションで親交を深め、また ACE の現状についてまとめた「月刊 ACE 創刊号」の作成を通じ、ACE の現状を見つめる良いきっかけとなった。

この企画で見つめなおした現状について、まだまだ改善へと踏み切れていないことが課題として挙げられる。問題について挙げることまでになり、具体的な改善へと踏み切ることができないことが、ACE の傾向としてあるため、具体的にどう変えるのか、そのためにはどのような日程でどのように取り組んでいくのか、そこまで話し合わなければ根本的な解決には進まないため、その点が今後の課題の 1 つである。

12 月イベント

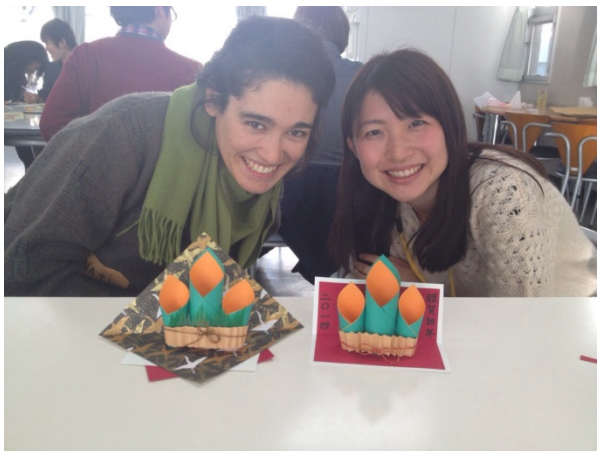
文責　加藤沙弥　安藤翔太

12 月企画は「年賀状づくり・しめ縄づくり・門松づくり」を行い、留学生に日本の文化に触れてもらうということを考えた。

しかし、3 連休中日、日本語能力検定当日などの日程調節不足のため参加人数が伸びなかった。広報の方法や日にちの設定が今後の課題として浮き彫りとなるイベントであった。

また、企画運営の中心となったメンバーの動きについても、目の前のことにだけ集中するのではなく、周りへの指示をすることの重要さを学ぶ機会ともなった。

参加人数が少なかった分交流の機会も多かったが、はじめてイベントに参加する人に対してどのように接するべきなのかなど、交流の姿勢についても捉えなおすきっかけともなった。

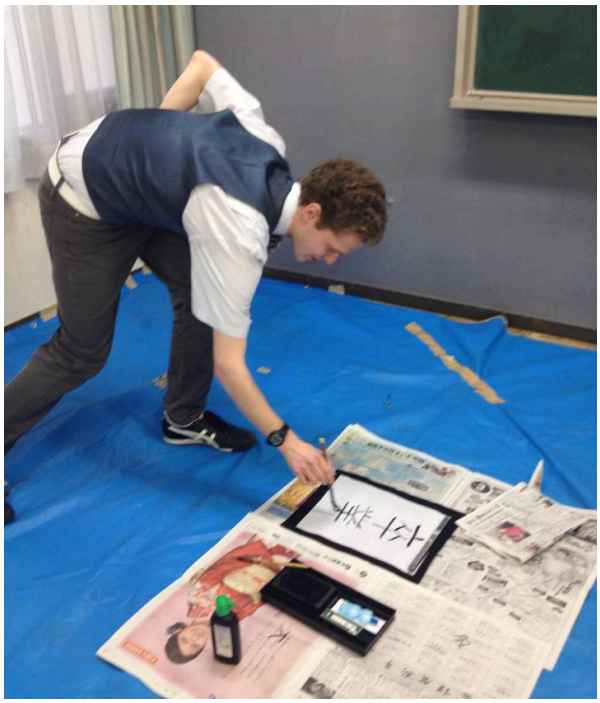


お正月イベント（1 月）

文責　加藤真穂

毎年 1 月の初めに、留学生に日本のお正月を体験してもらおうという趣旨でお正月イベントを開催している。今年もインターナショナルレジデンス東山にて様々な企画を行ったが、中でも目玉となるものは餅つきである。もち米を蒸すところから自分たちで行い、臼と杵を使って留学生と一緒に餅をついて食べようという内容であり、日本人と留学生が入り混じって臼を囲み、寒い中でもかなり賑わっていた。他にも書初めや羽根つき、甘酒といった日本を感じられるような企画を用意した。書初めでは、留学生が自分の国の新年の挨拶を筆で書いて紹介している場面も見られ、このイベントが日本の文化を体験してもらうだけでなく、異文化交流の場ともなっていた。

課題として挙げられるのは、参加者がかなり少なかったことである。年が明けて間もなくという日程上、他のイベントに比べて日本人、留学生ともに参加者が減ってしまうのは仕方がない部分もあるが、今回は広報が行き届いていなかったことも原因の一つとして挙げられる。Facebook やビラ貼り、口コミなど様々な広報手段がある中で、どんな方法が一番効果的なのかを考え、イベントの際の広報のやり方をある程度固めていくことが今後必要である。



企画内の「書き初めコーナー」の様子

3、メンバーが ACE に求めるもの

文責　安藤翔太

今回この活動報告書を作成するにあたって、ACE メンバーに「活動への意気込み」「今後 ACE にどのように関わっていきたいか」についてアンケートを行った。

・留学生と多くの交流の機会を設けたい
・ACE メンバー内でもっと親交を深めたい
・英会話をもっと上達させたい
・自己成長の場にしたい

など、様々な回答が得られた。

ACE のメンバー内でも、彼らが ACE の活動に求めているものには違いがみられる。このことは、ACE の活動にブレを生じさせてしまうことにもつながりうるが、また同時に ACE の活動内容をより幅の広いものへするためにも必要である。個人の求めている活動と ACE での活動、これら 2 つがぶつかりあい、損なってしまうのではなく、その両者が活きる活動ができるように考えていかなければならない。

また、ACE が活動に求めているものと、留学生が ACE に対して求めている活動の間に少なからずギャップがある。このことも留学生の参加者の人数の伸び悩みの原因の 1 つであろう。ここでも、ACE でやりたいことと留学生が求めていること、どちらかだ

けを重視するのではなく、どちらもの求めるものがかなえられる活動へと変えていかなければならない。

4、今後の活動の課題

文責　安藤翔太

現在 ACE は、様々な大学の学生が参加する大きな団体となっている。特に 1 年生は 60 名、2 年生は 50 名ほどを擁する組織となっている。

メンバーの数としては他団体と比べても、ACE の過去の人数と比べても非常に多く、一見活動の幅を広げられそうであるが、現在まだその段階へと踏み出すことができておらず、ただ過去の活動を繰り返すということがメインとなりつつある。

今年度からの試みは、以下の 2 つが挙げられる。

・*G30 に対しての受け入れ活動の開始*

・*12 月新たな企画の実施*

ACE はさまざまな目的を持った学生がその目的のために参加している。また明確な加入の条件もない。その中で、受け入れ活動や AFSA、NUFSA など他団体との協力など、ACE として求められている活動をしっかりとこなしていく。「仕事を与えてもらい、それをさせていただいていることで活動ができている」、その姿勢を 6 月の代替わりに向けて、メンバー内できちんと共有していくことが、25 周年を迎えた現在、そして今後も必要である。

ACE がある意義をしっかりと考えたうえで、他団体には見られない人数の多さ、個性の多さを最大限に発揮し、伝統を守りながらも新たな活動へと幅を広げていくことが大切ではないだろうか。

名古屋大学留学生会

NUFSA

名古屋大学留学生会

Nagoya University Foreign Students Association

Yixuan Wang

1. About NUFSA

   Created in 1990, Nagoya University Foreign Students Association (hereafter referred to as NUFSA) focuses on the planning and management of various events and conducts a number of activities every year to improve students' life in Nagoya University and to support them.

   In 2013, Dr. Yao Xiao was selected as chairman of NUFSA and his team began officially from April. In order to increase the efficiency of NUFSA, the organization was divided into 11 departments and each department head has to report to the board of directors. Mr Yao improved NUFSA to a multifunctional organization. After Yao Xiao graduated in October, Dr. Wang Yixuan was selected as chairman of NUFSA. Mr Wang inherit the tradition which created by Mr Yao to make the NUFSA perfect.

2. Executive board

   President: Yixuan Wang
   Vice President:Yijie Hu, Christian
   Secretary & Treasurer: Mengzhe Wang

3. Membership

   NUFSA membership is free of charge and automatically granted to all foreign students enrolled in Nagoya University, regardless of their nationality, major, schools, undergraduate or graduated students, etc. However, Nufsa holds a mailing list where information related to major events academics and daily life experiences are shared. For updates, students's write-ups, comments, ideas are invited, therefore, in order to participate; students should registered at nufsa@nagoyaren.com.

4. Networking

   In 2013, NUFSA used a lot of computor and internet skills to propagate the events of NUFSA in response to the rise of international students in Nagoya University.

Please find us!!!!!!
LINE：NUFSA 名大留学生会
Facebook: NUFSA Fan Page
QQ Group: 名大留学生会
Website: www.nagoyaren.com
Wechat: NUFSA

5. Support

NUFSA receives support from various organizations. We are financially supported by Nagoya University Foreign Student Support Association and we receive regular technical and organizational support from Nagoya University Advising and Counseling Services. We also collaborate with volunteer groups (ACE, YWCA, ALOE, Tomdachi) for organizing activities such as bazaar, welcome party, excursions, sports contest, etc.

6. Activities

In order to achieve our goals, we organize activities on annual bases, which run concurrently on weekly bases within semesters:

- Bazaar (twice a year)

We hold a bazaar twice a year in order to help newly arrived students to settle down. Offered goods are sold at a very low price including home appliances, daily household items, small furniture, bicycles, etc.

Time: early April and October.

Place: Higashiyama Residence

- Sports events (Twice a year)

We organize sports events to bring people closer. Games include badminton, tennis table, tennis, basketball, etc.

Time: September and March.

Place: Nagoya University Gymnasium

- Welcome Party (Twice a year)

This party is to welcome the new students, and introduce them to Nagoya University. It offers a good opportunity to meet new and current students and to get to know each other in a casual setting.

Time: Late April and October.

Place: Nagoya University Cafeteria

- Various parties

NUFSA plans a variety of parties such as New Year party etc. These are small parties, mainly for NUFSA executives of each department to exchange experience and resources.

Time: July, August, December, January, February

Place: Variable

- Newsletter

NUFSA newsletter is a bi-annual publication, which reports on current activities, students experiences and events in Nagoya. Articles are written by students and a copy of the newsletter can be downloaded on our website.

- Academic activities

Japanese Language & Culture course for foreign students' family members, sponsored by Nagoya Sakae Lions Club.

7. Future Plan

We plan to hold a seminar for international students to share the research results.

名古屋大学グローバルネットワーク
国際交流グループ
2013 年度　活動報告書

発行日　2014年３月３１日
発行　名古屋大学国際教育交流センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
Tel 052-788-6117